

石井健一郎 — 名高商から大同特殊鋼へ —

前々回で取り上げた澁澤賞が名大関係者の名を冠した最も古い賞なら、最も新しい賞は2022（令和4）年に創設された石井健一郎賞です。石井の意志に基づく寄附により、最も顕著な功績を上げた名大教職員を顕彰するもので、第1回は丹羽公雄名誉教授が受賞しました。

石井健一郎は、大同特殊鋼株式会社の中興の祖とも称される人物です。1903（明治36）年に香川県で生まれ、小学校時代から高松市の少年野球大会で活躍し、地元で有名だったそうです。高松商業学校に進学、5年生時には監督兼主将として県大会で優勝しました。

卒業をひかえた石井は、神戸高等商業学校（神戸大学の前身）から入学勧誘をうけます。すると、3年前に創立された名古屋高等商業学校（名大経済学部の前身）からは、無試験入学の願書を出すよう強く勧められました。高等商業学校といえばエリートコースでしたが、スポーツも盛んで、こうした選手の争奪戦もあったのです。

石井は、新設の名高商より慶應義塾や神戸高商に心ひかれていましたが、一応願書を出したところ3日後には入学許可書が届き、合格が官報に公表されたため、入学するしかなくなってしまったそうです。もちろん無試験で入学できたのも、高松商業を80人中3番の成績で卒業するという文武両道であったからでした。

1923（大正12）年に入学した石井は、2年生で主将となります。創部以来成績が振るわなかった名高商野球部ですが、石井主将の下での猛練習で鍛えられ、25年に東海専門学校野球大会で初優勝を果たしました。

また石井は、名高商2年生在学中に、名古屋で開催された第1回選抜中等学校野球大会（現在のいわゆる春の選抜高校野球甲子園大会）で母校高松商業を監督として率い、優勝に導きました。これを見た香川県人会副会長が、取締役を務める名古屋の大同電機製鋼所（後の大同製鋼、大同特殊鋼）に石井をスカウトしたといえます。



- 1 石井健一郎（1903-2001）。1946年大同製鋼常務、58年同社長、73年同会長、76年大同特殊鋼会長。戦後の危機を乗り越え、大同製鋼（大同特殊鋼）を世界的な特殊鋼メーカーに導いた。なお、今回の本文の内容の多くは、和木保満「天翔ける鋼—大同特殊鋼と石井健一郎—」（中部経済新聞社、1987年）による。
- 2 名高商時代の石井健一郎（1926年名高商卒業アルバムより、写真3、4も同じ）。
- 3 東海専門学校野球大会で優勝した名高商野球部（1925年）。中央で優勝旗を持つのが石井と思われる。
- 4 当時の名高商の授業（商業実践）。
- 5 石井が卒業した1926年の名高商卒業証書。

BRIEF HISTORY OF NAGOYA UNIVERSITY

名古屋大学の卒業生、
現役・退職後の教職員の方々へ

名大史をつむぐ資料を
大学文書資料室に!



■ 在学時の配布物

（学生便覧、シラバス、試験問題、課外活動の資料…）

■ 教育・研究活動、大学・部局運営に関する資料

（各種書類、会議のメモ、備忘録、スクラップ記事、写真…）

■ 校費による印刷物・刊行物

（冊子、パンフレット、ポスター…）

■ ご退職関係の記念冊子・記念論集・業績集… など

※その他、ご処分予定の資料についても、まずは下記へご一報ください。

東海国立大学機構大学文書資料室

TEL 052-789-2046

Mail nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp